

Title	私的病院経営と医療アメニティ
Sub Title	
Author	間口肇 和田充夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1989
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1989年度経営学 第720号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001989-0720

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 間 口 肇
(エーザイ株式会社)
所属ゼミナール 和 田 充 夫 研

主査 和 田 充 夫
副査 嶋 口 充 輝
池 尾 恭 一

私的病院経営と医療アメニティ

本研究は、厳しい環境下にある私的病院の目指す方向を提言するため、医療需要者にとっての医療の価値、すなわち医療アメニティを明らかにすることを目的とし、あわせて私的病院を取り巻く経営問題を抽出した。具体的アプローチとしては消費者行動理論をベースとして、医療需要者の葛藤知覚量に焦点をあてた医療需要者行動分析モデルを構築し、サーベイ調査によって仮説検証を行った。

仮説検証の方法としては、医療需要者の(1)個人の特性差、(2)疾患特性差、(3)情報処理行動、(4)受診頻度による態度形成、(5)初回受診時と反復受診時の情報探索活動の違いを、葛藤知覚の観点を中心に明らかにした。

実証研究の結果は、葛藤知覚量が個人の特性差、疾患特性差、情報処理行動と結びつくことが分かった。また、受診頻度によって態度形成が異なり、さらに初回受診時と反復受診時の情報探索活動が異なることも分かった。

以上のような分析を踏まえ本研究では私的病院を取り巻く経営問題を解決する方法として第1に医療需要者細分化戦略、第2に銘柄忠誠政策を提言している。そして、その根幹となるものは“医療需要者志向”である。本研究の分析結果では、このような医療需要者の医療アメニティは医療スタッフとの良好なコミュニケーションに基づく高い医療技術と好感の持てる接客態度であることが分かった。